

Mucosal dysbiosis in patients with gastrointestinal follicular lymphoma

膳所, 圭三

<https://hdl.handle.net/2324/4474970>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名：膳所 圭三

論 文 名：Mucosal dysbiosis in patients with gastrointestinal follicular lymphoma
(消化管濾胞性リンパ腫における腸内細菌叢の検討)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

消化管濾胞性リンパ腫 (GI-FL) の病因は依然として不明であり、標準化された治療戦略も確立されていない。消化管リンパ腫のうち、胃粘膜関連リンパ組織 (MALT) リンパ腫は *H. pylori* と強く関連している。したがって、腸内細菌叢が GI-FL の発症にも関与している可能性がある。しかし、GI-FL と細菌叢との関連についてはこれまで報告されていない。そこで、我々は、GI-FL 患者の腸内細菌叢の変化を明らかにするために、GI-FL 患者の粘膜細菌叢を対照群と比較した。十二指腸に病変を有する GI-FL 患者 20 人および対照 20 人から、十二指腸下行脚から粘膜生検サンプルを採取した。その後、16S rRNA 遺伝子シーケンシングを実施した。細菌叢の解析には、QIIME pipeline と LEfSe ソフトウェアを使用した。その結果、GI-FL 患者は対照群に比べて α 多様性 ($P=0.049$) が有意に低く、 β 多様性を用いた細菌叢組成の比較においても両群間で有意な差があった ($P=0.023$)。その結果、GI-FL 患者では、*Sporomusa* 属、*Rothia* 属、*Prevotella* 属、*Gemellaceae* 属が対照群に比べて有意に少ないことがわかった。結論として、GI-FL 患者では十二指腸粘膜の細菌叢組成が変化しており、これらの細菌が GI-FL の発症に関与している可能性が示唆された。